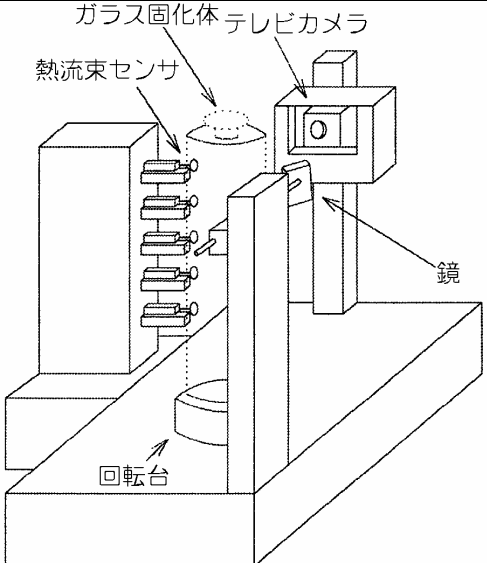
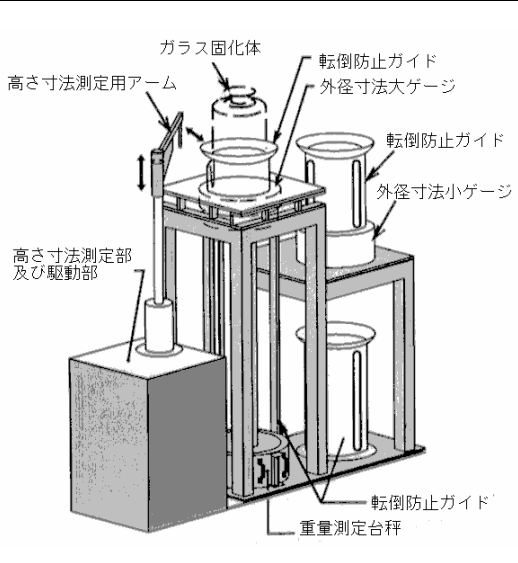
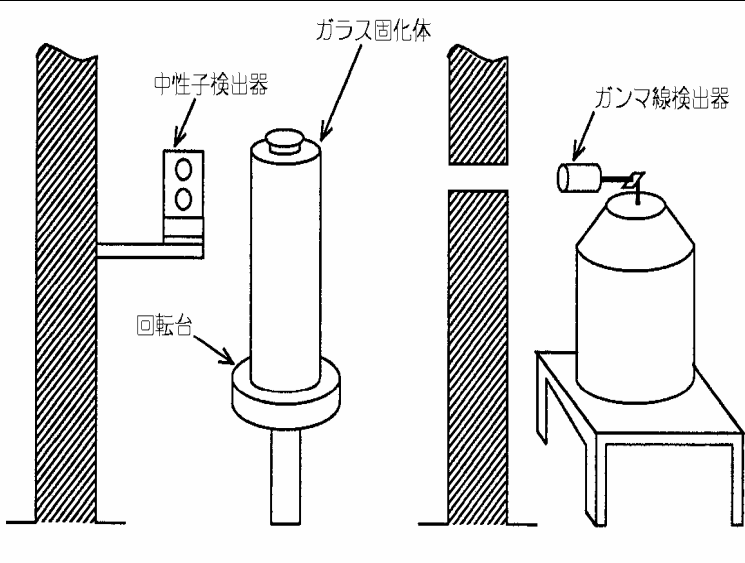
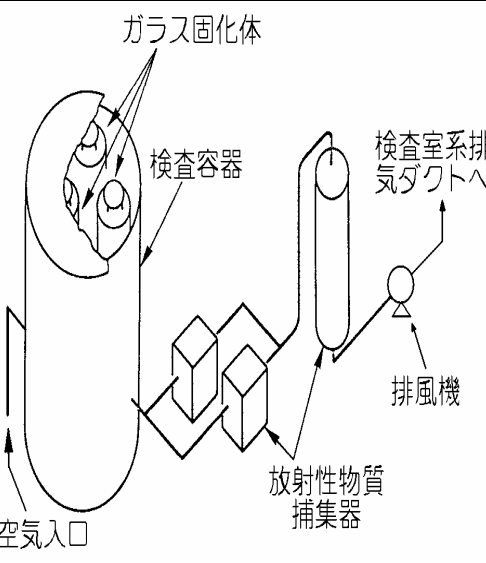
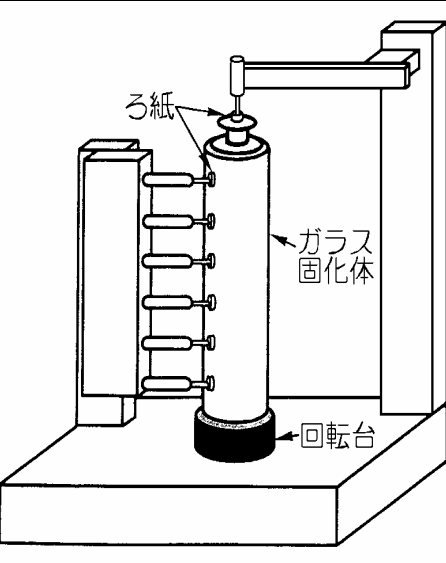


ガラス固化体検査・測定の概要

検査・測定装置		①【発熱量測定】	②【外観検査】	③【寸法測定】	④【重量測定】	⑤【放射エネルギー測定】	⑥【閉じ込め検査】	⑦【表面汚染検査】
								
検査・測定内容		発熱量測定のためのセンサをガラス固化体に接触させ、放熱量 (W/m ²) を測定することによりガラス固化体の発熱量を求める。	ガラス固化体を回転させ同時にテレビカメラを上下させて、ガラス固化体の各部を目視する。	【外径（大小ゲージ）】 ガラス固化体が大ゲージを通過でき、小ゲージを通過できないことを確認する。 【高さ（高さ計）】 測定端子をガラス固化体の頂部に接触させ、ガラス固化体の全高を測定する。	大ゲージ設置位置の下部に重量計を設置し、重量を測定する。	【α線を放出する放射エネルギー測定】 中性子発生数を中性子検出器で測定する。 【α線を放出しない放射エネルギー測定】 ・セシウム－137およびユーロピウム－154の濃度をγ線検出器で測定する。 ・発熱量の測定値に対応するα線を放出しない放射性物質の濃度（全βγ放射能濃度）を計算により求める。	ガラス固化体（3本1組）を検査容器に収納し、排風機によって検査容器内を経由した空気を放射性物質捕集器（フィルタ及びルテニウム捕集材）に通す。その後、フィルタ及びルテニウム捕集材の放射性物質（放射性セシウム、放射性ルテニウム）を分析し、ガラス固化体の閉じ込めが健全であることを確認する。	ガラス固化体を回転させて、ガラス固化体の表面をスミヤロ紙で拭き取りスミヤロ紙を分析し、放射性物質の表面密度を測定する。